

健康

環境

サイエンス

食の安全を守るために

～環境科学研究所の取り組み～

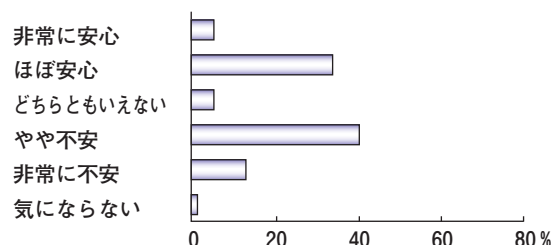
はじめに

近年、中国産冷凍ギョウザ事件やメラミンによる乳製品汚染事件、汚染米事件といった事例が発生し、市民の食品の安全性に対する不安や不信が増大しているといわれています。食品の安全性に関するアンケートの結果をみても、「どちらともいえない」や「気にならない」という回答は少なく、食の安全には市民の関心が非常に高いことが伺えます。

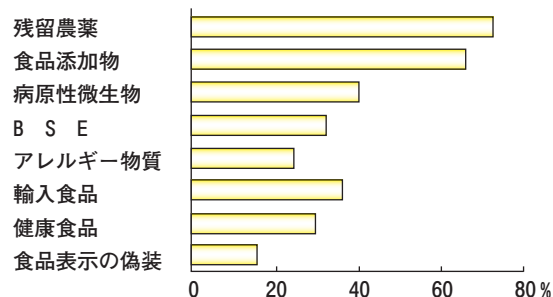
環境科学研究所は、日常業務として残留農薬や食品添加物の食品検査を行うだけではなく、食品汚染など重大事件が発生した際は、緊急の検査対応も行っており、市民の食の安全を守っています。例えば、先に挙げた冷凍ギョウザ事件の際には、どこから農薬が混入したのかを推定するために、ギョウザを皮と具の部分に分けて測定することなどを試みました。市民の安全を守るために、どのような検査を行うべきかを常に考えながら、迅速な対応に努めています。今回は、環境科学研究所の食の安全に対する取り組みの一部をご紹介します。

市民のニーズ

食品の安心・安全について



特に不安を感じることは



H21年度 天王寺区みんなの健康展
～食の安全・安心に関する意識アンケートより～



農薬混入ルート解明のためギョウザを皮と具に分ける作業



測定装置 (GC/MS) による農薬の測定作業

中国冷凍ギョウザ事件で農薬（メタミドホス）の検査を行う研究員

（食品保健担当 萩原拓幸、山口之彦）